



工業用酸化マグネシウムトップメーカーの協和化学工業は、技術イノベーションと生産面の力を融合・強化しながら新製品開発や新事業創出の取り組みを加速する。7月に就任した宮田茂男社長は研究畑を長く歩んできた経験も踏まえ「まずは技術革新のできる人材が必須であり、増やしていく」と語る。特徴ある付加価値製品群をベースに海外事業も強化していく考えで今秋には海外4拠点目として中国・上海にも進出する予定。

同社は医薬品や医薬品原料、安定剤や難燃剤などの樹脂用添加剤、難燃剤などの無機フアインケミカル製品を扱う。売上高200億円の内訳は医家向け・工業用途が半分



宮田茂男 社長

付加価値品軸に海外強化



安定供給体制構築を進める医薬製剤事業所

ずつ。

医薬事業の主力製品は2002年に開発した医家向け緩下剤の酸化マグネシウム「マグミット」（商品名）。錠剤化により患者が服用しやすくなったほか、医療従事者の負担も軽減、口中での崩壊性にも優れるなどメリットが多く、売り上げを伸ばしている。

「エンドユーザーの反応や潜在的要望を早い段階でつかむためにも、先

見性を持つためにも」宮田茂男社長、最終製品を重視している。このため工業用、医薬品ともマグミットに続く新規最終製品の開発に力を注ぐ。

海外では製造販売子会社「のらんキスマ・ケミカルズ」のほか北米、シンガポールに販売拠点を擁している。今秋には、これに上海が加わる。世界的企業を目指し、海外販売拠点網に独自製品、斬新な製品を次々と送り込んで

いく（同）考え。

「より社会に貢献できる企業（同）を目標しマグネシウム技術をベースに農業分野への本格進出を計画している。子会社のキスマ・ソルブスを通じて17年にも農産物加工品を市場投入する。